

自然災害で救助が増加、火災や救急は減少

平成21年以来過去最少

久留米広域消防本部が管轄する、久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町の令和2年の消防統計がまとまりました。平成21年に久留米広域消防の144件から36件減少しました。平成21年に久留米広域消防本部が発足して以来、最も少ない火災件数は108件で、昨年の144件から36件減少しました。平成21年に久留米広域消防

本部が発足して以来、最も少ない火災件数は108件で、昨年の144件から36件減少しました。平成21年に久留米広域消防の144件から36件減少しました。平成21年に久留米広域消防本部が発足して以来、最も少ない火災件数は108件で、昨年の144件から36件減少しました。モバイルバッテリーは、コンセントがない場所や移動中にも使って便利



い件数です。火災の種類は、建物火災が70件、車両火災が9件、林野火災が1件、その他の火災が28件でした。

主な原因是、たき火や野焼きといった野外焼却が20件、電灯・電話などの配線が10件、電気機器が10件、こんろが7件、放火の疑いが6件です。108件のうち、久留米市は70件で、昨年から10件減少しました。

最近の特徴として、リチウムイオン電池から出火する火災が増えています。リチウムイオン電池は、スマートやタブレット端末などを充電するモバイルバッテリーに使われています。専用でない充電器を使用すると過充電になつたり、落として強い衝撃を与えると出火することがあります。かばんに入れたまま落として発火したケースも。

充電は付属の充電器やメモリ指定の物を使用してください。最後まで充電ができない、途中で熱くなるなどの異常があつた場合は、絶対に使用しない

いでください。

自然災害やコロナが影響

救急車の出動件数は、1万9243件で、昨年の2万1304件から2061件減少しました。平成21年以来、年々増加していましたが、初めて減少しました。主な原因是、新型コロナ

の感染予防のため、マスクの着用や手洗いが広く行われ、病気によるリスクが減ったことや外出が減り交通事故が減ったことなどが考えられます。

消防隊が救助のために出動した件数は305件で、昨年から70件増加。近年、多発する自然災害で救助件数も増加傾向があります。「令和2年7月豪雨災害」の救助件数は83件でした。

多数の通報があり、全ての通報に対応し、迅速に駆け付けることができない場合があります。

NET119のイメージ図。いつでも



昨年7月の豪雨で救助に向かう隊員たち

スマホのボタンを押すだけで

NET119緊急通報システム登録者募集

簡単な操作で

久留米広域消防本部は、3月15日(月)からNET119緊急通報システムの運用を開始します。聴覚や発語機能などに障害があり、119番通報が困難な人が対象です。NET119は、スマホなどの携帯端末から、インターネットを使って119番通報します。GPS機能をオンになると、今いる場所の位置情報を、自動的に消防本部に伝えることができます。

スマホの選択するボタンは、平仮名でルビが入ったり、絵文字で表示されるなど、一目で分かります。もしものときに備えて練習することもできます。

操作は、画面に表示される救急や火事などのボタンをタッチするだけの簡単なものですが、チャット機能で居場所やけがの状態をリアルタイムで伝えることができます。消防署員から返信がきます。消防署員からの質問には、「はい」「いいえ」などのボタンで回答。スマホからは写真を送ることもできます。

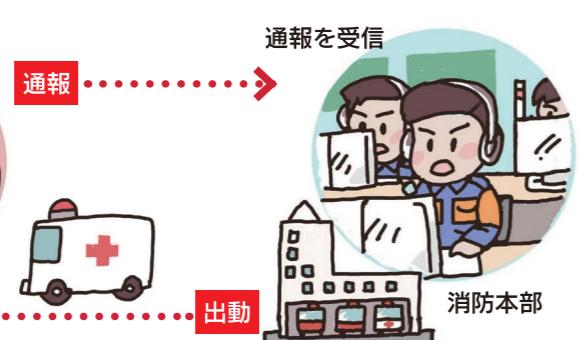
運用中のWeb119緊急通報システムは、3月31日水に終了します。利用している人は、NET119の登録をお願いします。

事前登録が必要

対象者 聴覚や発語機能などに障害があり、音声での119番通報が困難な人。市内に住んでいるか、または通勤・通学している人。障害者手帳がなくとも申請できます。

登録料 無料。登録や通報時の通信料は自己負担です。

利用には、事前登録が必要です。申請書に必要事項を記入し、問い合わせ先まで郵送してください。申請書は、消防本部や各消防署で配布しています。筑後地域消防指令センターのホームページからもダウンロードできます。



久留米広域消防本部緊急通報システムへQRコード詳しいは



POINT 救急搬送時間はトップレベル

久留米広域消防本部管内で、119番通報から病院に到着するまでの時間が、令和元年度は27.2分でした。この数値は、全国平均39.5分を大きく上回り、全国トップレベルです。久留米市内に限っては26.0分で、政令市や中核市の中では、5年連続で全国1

位の早さを誇っています。主な要因としては、救急隊の速やかで的確な観察や医療機関が充実していることが挙げられます。他にもGPSを活用し、現場に最も近い救急車を出動させていることで、現場到着までの時間短縮につながっています。

分別を間違うと火災の原因に

リチウムイオン電池やボタン電池などは、ごみ収集車で回収するときやクリーンセンターで処理するときに発火する危険があります。「有害ごみ」として、燃やせるごみの日か、資源物などの日に出してください。

施設課 (0942-27-5371, FAX 0942-27-5443)



乾電池と同様、透明か半透明の袋に入れて出してください